

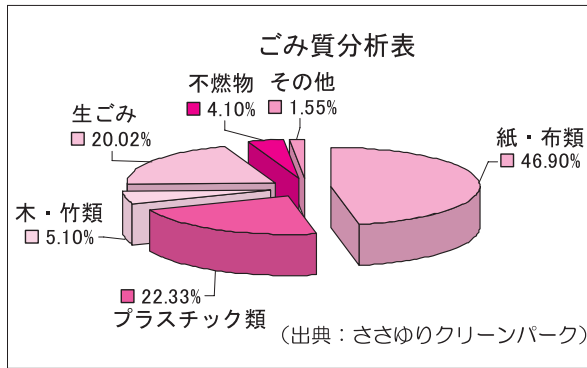
そのゴミを 分けてはじまる リサイクル

平成18年度環境標語 優秀賞 太田小学校 加納千聖^{ちきと}さんの作品

捨てる紙あれば、 拾う(リサイクル)紙あり

No.13

家庭から出るゴミを減らすためにできること。捨てる紙を減らすと、かさが減ります。



右の表は、平成17年度のごみ質分析表です。ごみの成分の中で約47%が紙・布類であることが分かります。
すべてリサイクルできるわけではありませんが、かなりの量の紙類が廃棄されているようです。



環境課
内線 307

雑紙はリサイクルへ

雑紙ってなんだ？

家庭から排出される古紙で、不要となったチラシ、パンフレット、コピー紙、包装紙、紙袋、紙箱などの紙全般を指します。

排出時の注意

シール、プラスチックフィルムがついたはがき、ティッシュ取り出し口や窓枠封筒は、その部分を取り除いてください。また、芳香加工してある紙は出せません。

お菓子などの空き箱を簡単に捨てていませんか！

まず、1週間ほどのくらいたまるか挑戦してみましよう。排出するごみの量が意外と減ってごみ袋の使用枚数も減るかもしれません。

考えよう。共生時代⑬

日本人・外国人ではなく、一人の人間として(後半)

Bom Dia

外国人は、いまや観光をするために来日しているではありません。お客様ではなく、一市民です。

5月15日号のこのコラムでも紹介したように「多文化社会」は、各地で既に存在しています。その多文化が「共生」し、「多文化共生社会」を構築するためには、行政、企業、住民(日本人・外国人)など、社会全体がそれぞれの文化(国)の違いを理解し、具体的な政策、企業方針、CSR(企業の社会的責任)などを改善・見直しをして実施する必要があります。

個人(日本人・外国人)レベルにおいては、隣近所に住む文化や習慣の違う人を理解することから始まります。例えば、外国人は日本の文化・習慣・歴史などを理解し、隣近所の日本人とコミュニケーションを図り、地域に溶け込むようにしてはいかがでしょうか。日本人も地域に住む外国人の文化・習慣を理解し、外国語で「こんにちは」など、簡単なあいさつからコミュニケーションをとってみてはどうですか。

一方で、地域によっては、わたしたち外国人が日本語を使わずに生活できる環境が整っているところもあります。しかし、その「便利さ」に甘んじていることなく、もっと積極的に日本語を勉強するべきだと思います。日本語を学ぶことで、日本人とのコミュニケーションも通訳無しでできるようになりますし、日本のことをもっと知ることができ、外国人自身の自立にも結びつくと思います。

日本人・外国人ではなく、一人の人間として隣人と「共生(symbiosis)が原点です。
(文責 大里)